

## 平成30年度 国語科

教科	国語科	科目	現代文B	単位数	3	年次	3
使用教科書	「新編現代文B」(東京書籍)						
副教材等	「チャレンジ常用漢字」、「カラー版新国語便覧」、「プライム常用国語」(第一学習社)						

## 1 担当者からのメッセージ

皆さんの卒業後の進路はさまざまですが、どんな進路を選択しても、日本語の会話力・読解力・思考力を磨くことは、日本の社会を生き抜くために必要なだけでなく、大いなる武器ともなります。必要性はそれだけではありません。インターネット・スマートホンの普及により、国際化・グローバル化の速度が飛躍的に早まり、今や子供から老人まで、誰もが一本の指先でいとも簡単に世界と結びつくことができる世の中になりました。英語や韓国語の教室が賑わい、進学や会社内の昇進に英語の資格を重視する所が増え、学習指導要領も小学校から英語を学ぶように改められました。しかし、いくら機械の操作や外国語に堪能であろうとも、いや、専門的になればなるほど高度な日本語能力が要求されます。日本語を母語とする者は、その大元の「発想」・「思考」を日本語で行っているのです。国語の能力を磨くことはコンピュータや外国語学習だけでなく、すべての分野で役に立つことは他言を待ちません。

しかし、我々の日本語学習を取り巻く環境はどうでしょうか。学習に不可欠な「読む」・「書く」・「聞く」のすべてがおろそかにされているように思われます。大学生の読書時間が短くなっているという統計があります。文字は「書くもの」から「打つ或いは触れるもの」に(この文章もそうです)、文章は「考えるもの」から「写し取る」ものになってきています。メディアなどで正しい言葉遣いや美しい文章の朗読に触れる機会もほとんどありません。逆にマスメディアが日本語或いは日本人の教養に悪影響をもたらしていると言っても過言ではありません。更にフェイクニュース、情報の偏りという問題も起こっており、情報の正誤を見極める判断力が益々必要になっています。

このように日本語の退廃が進み、ひいては日本の様々な分野での技術力の低下さえ憂慮される中、従って、皆さんには日本語を母語とする社会人・国際人として必要となる日本語の力を確実に身に付けて、様々な場で活躍し、その能力を次代にも受け継いでもらいたいと思っています。

## 2 学習の到達目標

「現代文B」では近代以降の様々な文章を教材に用いて、文章の意味や作者の意図、人物の心情などを的確に理解し、問題として受け止め、想像し、思いやり、考えて、それを適切に表現するような日本語の総合的な能力を高めるとともに、皆さんのものの見方、感じ方、考え方を深め、確固たる人間として生きる力を身につける一助としたいと考えています。また、それをきっかけとして読書を楽しみ人生を一層豊かにする態度を育ててほしいとも願っています。

授業では文章を読む能力とともに、いろいろな場面に積極的に関わることで、話し合いや感想、意見の論述、発表などコミュニケーションや意思を伝えるための能力もしっかりと身につけてください。昨年に続き、漢字や語句の小テストも行います。漢字検定3級から準2級程度の漢字の力を身につけられるように、テスト本番はもちろん、下調べからやり直しまで真剣に取り組むように望みます。また、毎週国語常識を培う問題演習も行います。

予習としては家庭で必ず本文を読んでから授業に臨む習慣を身につけましょう。何を置いても「読むこと」が大事です。授業の後には内容を振り返り、本文とノートを照らし合わせながら復習してください。国語便覧で作者の生涯や時代背景を知ること興味深いことでしょう。復習プリントは学習の定着に役立ちます。定期考査前には繰り返し復習をしてください。

評価は考査成績だけでなく、平生の積極的な態度や真面目な姿勢も考慮します。

### 3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	日本語に興味を持ち、進んで国語力を高めようとする。授業内容に強い関心を示し、積極的に参加しようとする。	教授者や仲間の発言を的確に聞き取り、それに応じて自分の考えを深め、まとめながら、効果的に話したり話し合ったりする。	自分の考えをしっかりとまとめ、相手や目的など場に応じた適切な表現による文章を書くことができる。	文章を的確に読み取ったり、その裏に隠されたものを読み解いたり、視野の広い見方で読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	日本的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主 た る 評 価 方 法	授業の受け方 ノート・提出物等の記述の点検	授業の受け方 発表等の発言の内容の点検	ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査	授業中の発表、ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査	授業中の発言、ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査 小テスト
上に示した観点に基づいて、学習单元ごと・学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価は学習内容に応じて、それぞれの観点毎に適切な割合を案分して行います。					

### 4 学習の活動

学期	单元名	学習内容	主な評価の観点					单元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1 学 期	評 論 (時 代 を ひ ら く)	教材: 「最初のペンギン」 「もう一つの知性」 (人間とは、知性とは、という人間の存在の本質について思考する機会を持ち、考えをまとめる)	○		◎	◎	○	a:興味を持って読んでいる。 c:題材・着眼点の面白さと表現の工夫に気づき、それをわかりやすく説明できる。 d:筆者の主張を的確に理解し、自分の問題として考え深めようとしている。 e:基礎的な語句の意味や用法を理解している。	a、c、d、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査
	小 説 (生 の か た ち)	教材: 「山月記」 (小説の場面展開を的確に捉え、主人公に感情移入して読みを深め、また伏線の効果を理解する)	○	◎		◎	○	a:小説の内容とおもしろさを的確にとらえ、味わうことができる。 b:考えの進め方や、情景・心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 d:作品の主題を的確に掴み、生きるヒントに発展させている。 e:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、d: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査  e:小テスト

	随想 (新しい視点から)	教材: 「カフェの开店準備」 「なまけものコンプレックス」 (文章の構成、展開、 要旨などを的確にとらえる)	○			◎	○	a:文章の形態や文体、語句など関 心を持ち、筆者の意図を読み取 ろうとしている。 d:文章の構成を考えて、筆者の視 点の面白さに気づき、筆者の主 張を理解しようとしている。 e: 抽象的な概念を示す語句への 理解が進んでいる。	a、d、e: 授業の受け方と 提出物の点検 定期考査
2学期	詩 (心のうた)	教材: 「竹」「一日の長さ」 (詩のリズムや表現 の特色を味わう。作 品に託されたイメ ージを通じて、作者 の心情を考える)	○			◎	○	a: 詩的響きの持つ効果を理解し ている。 d: 作者の思いを理解している。 e: 詩の形式を理解している。	a、d、e: 授業の受け方と 提出物の点検 定期考査
	小説 (物語の中)	教材: 「カンガルー日和」 (小説のおもしろさ を味わい、その主題 と構想とを理解す る。小説を読む楽し さに気づき、日々の 生活の中で読書す る習慣を身につけ る)	○	◎		◎	○	a: 主人公たちの言葉のやりとり を通じて場面展開を理解し、心 理変化を読み取ろうとしてい る。 b:小説のテーマを説明できる。 d:情景描写や心理描写における 表現方法・効果に着目し、より 深い理解に結びつけられる。 e:正しく理解し、使いこなせる言 葉の数を増やしている。	a、b、d、e: 授業の受け方と 提出物の点検 定期考査
	評論 (現代を生きる)	教材: 『『環境史』から考え る』 「モードの論理」 (評論を読んで、そ こに提示された問 題を正確に把握し、 理解するとともに、 自分自身の問題と して考える)	○			◎	○	a: 論理の展開を体系的に正確に 読み取り、筆者の考えを理解し ている。 c: 提示された問題に興味を持 ち、筆者の考えに対する自分の 考えを正確に説明できる。 e: 抽象的な概念を示す語句への 理解が進んでいる。	a、c: 授業の受け方と 提出物の点検 定期考査  e:小テスト
	俳句 (イメージの世界)	教材: 「春雷」 (俳句のリズムや表 現の特色、面白さを 味わう。作品に託さ れたイメージを通 じて、作者の心情を 考える)	○			◎	◎	○	a: 俳句の響きや言葉の組み合わ せの妙、表現の持つ効果を理解 する。 c:自分が受け止めた思いを言葉 で的確に表現している。 d: 作者の思いを情景とともに理 解している。 e: 俳句の歴史や形式を理解して いる。

3 学期	小説 (虚構と真実)	教材： 「葉桜と魔笛」「鞆」 (場面の設定、展開や人物の性格・心理の描写を的確に読み取る。 描かれた人物の思考や行動をとおして、人間のあり方 生き方についての考えを深める)	○	◎			○	a: 物語の流れの中から、登場人物の心理描写に着目して、登場人物の心理変化を読み取り、それを説明する表現の仕方を理解する b: 登場人物の会話や行動から、二人の心理を的確に捉えて、それを正確に説明している。 相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを客観化したりして、実りの多い話し合いをしている。 e: 小説の背景の時代を、世相や風俗をふまえて的確に理解している。小説における比喻や象徴的かつ暗示的な表現も理解している。	a、b、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査
	読書と人生	教材： 「国際化の流れの中で」 日本が独特の文化を守りながら国際化にも対応してきた歴史を理解し、現代の問題に視野を広げ、考えを深める。	○			◎	○	a: 文意を読み取り、歴史の流れの中の現代という社会観を身につけている。 d: 筆者の考えを理解した上で自己の考えを組み立て、表現できる。 e: 慣用句、文学作品、比喻を理解している。	a、d、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査
	言語活動	テーマ： 「ITと未来」	○			◎	○	a: ITメディアの特性を知った上で、その長所と問題点を様々な角度から考察する。 c: ITメディアの特性とその問題点や可能性についての的確に説明できている。 e: 現代における多様なメディアの様式や用語を理解している。	a、c、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度      b: 話す・聞く能力      c: 書く能力  
d: 読む能力      e: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。